

9月25日 318回 「やってみてわかったPTAのおもしろさ」

話題提供 加藤拓真さん（藍川東中学校PTA会長） 17名

いつも岐阜県教職員組合で忙しく働いておられる加藤さんが、PTA活動でもエネルギーに活躍されていると聞き、早速サロンに来ていただきました。

加藤さんには二人の息子さんがいます。息子さんの成長に合わせて会長、顧問それに伴って連合会の仕事など、足掛け7年もの間PTAに関わってこられました。

加藤さんが最初にPTA役員を依頼された時は、自治会長もすることになっていたのですが、ただ「大変だな」というイメージだったそうですが、やってみると今まで付き合い合ったこともない幅広い人たちとの付き合いが楽しく、全く知らなかった分野の情報にも触れることができ、PTA活動は自分の人生においてとても意義があると思うようになりました。

加藤さんにはPTA会長としてのこだわりがありました。それは、自分にしかできないメッセージ、アピールをするということです。入学式・卒業式ではピアノでの弾き語りをしました。運動会では大震災についても語りました。

もう一つのこだわりは、本当に自分がやりたいことをするということです。前年の踏襲をするだけではだめ、やってみて「楽しかった」「よかった」と感じられる活動をしました。

また、子どもたちのスマホ使用についてなど、ルール偏重になりがちな問題解決のしかたを変えたいと思いました。PTA活動そのものにおいても強制を排除しました。

色々困難もありましたが、PTA活動をしてよかった点は、地域の方とのつながりができたこと。息子たちにも良い影響があり、成長につながったこと。何より自分の視野が広がり、生活にリズムができたことなどを挙げられました。

参加者の中にもPTA役員経験者が2名いました。ある参加者からは「シャンシャン総会を変えたいと思い、総会に出たら必ず一度は発言をすると決めていた」とか、「エアコン費用をなぜPTAが出すのか？」と発言した父親もいたことを紹介。

PTA役員は引き受け手がないのが実情。でも、役員をしたことが宝物になり、今だに昔のPTA仲間と付き合っているという楽しい話も出ました。しかし現実には、授業参観への保護者の参加は半分くらい、その後の話し合いは更に減って4～5人しかいないというのが実態。今は個人情報の問題などがあり、連絡網も作られず、親同士の繋がりが持ちにくいという状況があります。元中学教員からは、校内暴力が吹き荒れたころは、何度もPTAの学級会や学年集会が開かれ、親と共に学校を変えていった経験が語られました。昔と今のPTAの意識の違いについても話題になりましたが、貧困・格差・親の過酷な労働環境・教師の多忙化などの視点を抜きにしては語れないとの指摘もありました。

加藤さんは、最後に「この週末もPTA活動で仲良くなった仲間と飲むんです！」と楽しそうに話されました。